

我が家のペット

札幌市医師会
札幌東豊病院

まえだ のぶひこ
前田 信彦

以前、「札幌通信」で我が家のペットを紹介しましたが、字数の関係で犬のことしか書けませんでしたので、今回猫のことも書きます。

現在我が家には、犬1匹、猫2匹と亀1匹のペットがいます。

犬のことを簡単に紹介しますと、もう亡くなりましたが、2001年にミニチュアダックスフンドをペットショップで購入して飼っていました。その散歩姿を見た人からと思いますが、2010年にタイヤを入れる家の倉庫に、「よろしくお願ひします」との手紙とともにミニチュアダックスの子犬が入れられていました。いわゆる捨て犬ですが、今は家族の一員として元気に過ごしています。名前は「こはな」といいます。

また、猫については、2匹とも保護猫です。以前から近所に野良猫はいたのですが、2017年5月、雨の降る寒い夜9時頃に帰ってくると、近所の公園のほうで猫のような鳴き声がありました。見にいってみると、なんと5匹の子猫が草むらにいました。一番大きな子猫がニャー、ニャーと鳴いていて、ほかの子はあまり元気がないようでした。まずは、5匹を家に連れて帰り、体をふいて暖かくしてやりましたが、1匹は反応がなく、呼吸もやっという状態でしたので、動物の夜間救急病院に連れて行って診てもらいました。見立ては、今晚も持たないかもしれないということでしたが、口の中の泥をとって、水分を与え、暖めてやったところ、その後持ち直してだんだんと元気になってくれました。その時の体重は、300gくらいでした。家族で、シリンジで子猫用ミルクを与えみんな元気になっていきました。そして、5匹も飼えないので、飼手を探して、4匹はもらってもらいましたが、あと瀕死の状態であった1匹には愛着もあり、自分の家で飼うことにして、犬1匹、猫1匹の生活になりました。名前は、顔が孫悟空みたいだと娘がいうので「孫(そん)」になりました。

しかし、その後、また近所に子猫がいるとの情報がありました。その時は冬が近かったので子猫に冬は越せないぞとの話になり、探して探して、何とか2匹を保護しました。2019年11月のことでした。動物病院に連れて行って見てもらいましたが、猫風邪くらいで問題はなく、1匹は知り合いにもらってもらい、もう1匹は白い猫で、体がふわふわとして可愛らしく、もう1匹の家猫として飼うことにしまし

た。名前は、おそらく親猫と思われる猫が「まめ」ちゃんと呼ばれていたので「こまめ」にしました。そこで、今の犬1匹、猫2匹体制になったわけです。死にかけていた、「孫」も今は体重6kgくらいになって、オス猫ですが、どっしりと貫禄も出ています。「こまめ」はメスで小さくて体重も半分くらいで可愛くなりました。子猫の時は抱っこもさせてくれたのですが、大きくなってから、家内や娘には懐いているのですが、私には今一つ懐かず、少し寂しいですが、見ているだけで癒やされています。

それぞれが我が家に来た境遇を思うと、不憫な思いはします。本人たちは今、全く何も思っているはずもないのですが、我が家では幸せな人生、いや「犬生」「猫生」を過ごせるよう努めていきたいと思っています。

それと、冒頭に書いた亀ですが、20年以上前にお祭りを買った亀です。家の中で冬眠もせず元気になっています。

(おまけ)

我が家のペットの紹介をしましたが、2023年7月、さらに2匹の猫が我が家に来ました。この猫たちも近所にいた猫を保護したのですが、2匹とも黒猫で黒1号、黒2号と呼んでいます。手を近づけると小さいながらもシャーと言って威嚇します。まだ、人馴れしていないようですが、これ以上は飼えないので、飼い主さんを探しています。



(左) こまめ

(右) 孫